

2. 火山の概況

(平成 16 年 1 月 8 日 ～ 平成 16 年 1 月 14 日)

期間中、阿蘇山で規模の大きい土砂噴出が発生し、火山活動度レベルは 2 から 3 に上昇した。

その他の 4 火山の火山活動度レベルに変化はなかった。浅間山では地震がやや多い状態が続いた。桜島では噴火が発生した。

霧島山では御鉢の火山活動が消長を繰り返しつつ継続した。

その他の火山については、吾妻山では地震が多くなった。三宅島、諏訪之瀬島では活発な噴煙活動が継続した。

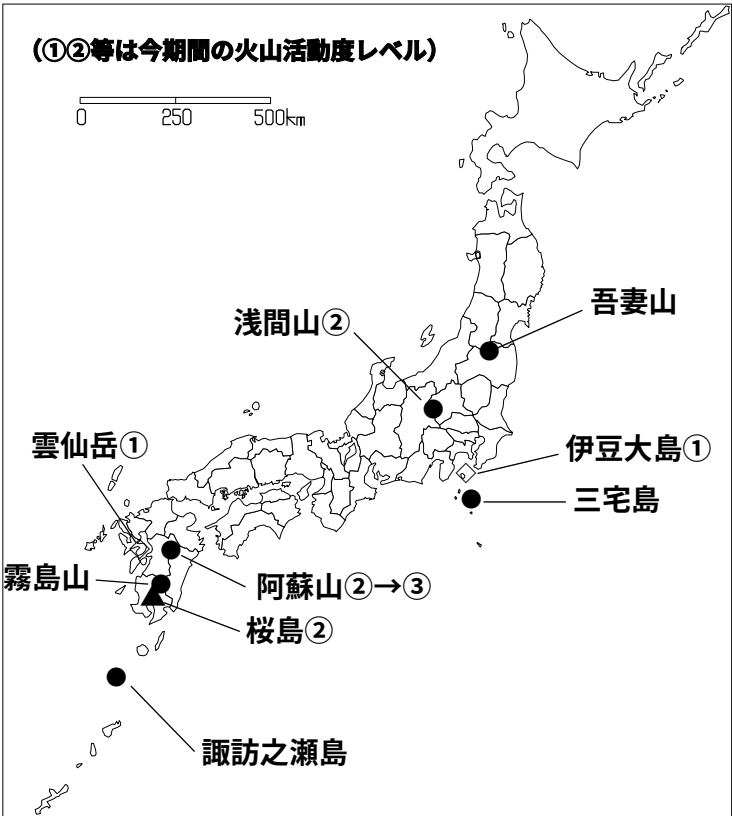


図 1 記事に掲載した火山

表 1 最近 1 か月に記事を記載した火山

号	対象期間	浅間山		伊豆大島		阿蘇山		雲仙岳		桜島		吾妻山	焼岳	三宅島	福徳岡ノ場	霧島山	諏訪之瀬島
		レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号						
3	1/ 8- 1/14	②	●	①	◇	③	●	①	◇	②	▲	●		●		●	●
2	1/ 1- 1/ 7	②	●	①	◇	②	●	①	◇	②	●			●	◆	●	▲
1	12/25-12/31	②	●	①	◇	②	●	①	◇	②	●		●	●	●	●	▲
52	12/18-12/24	②	●	①	◇	②	●	①	◇	②	◇			●	●	●	▲
51	12/11-12/17	②	●	①	◇	②	●	①	◇	②	◇	◆		●		●	▲

注 1 記号の意味
▲：噴火した火山
●：観測データ等に変化があった火山
◆：前期間まで▲や●で掲載した火山の、その後の状況等
◇：その他記事を掲載した火山
①②等の丸付き数字：火山活動度レベル

注 2 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、変化があった観測データ項目を示す。

● 吾妻山 [地震]

昨年 12 月以降増加傾向にあった微小な地震が、1 月 10 日頃よりさらに増加した。日回数は、10 日 56 回、11 日 61 回、12 日 71 回、13 日 53 回、14 日 62 回と多い状態が続いている。震源は一切経山（大穴火口付近）の地下の深さ数 km と推定され、ここでは 2001 年 12 月 24 日にも日回数 86 回となる地震活動が発生している（以上図 2）。

なお、この地震活動に関係して、噴気活動や地殻変動には特に変化は観測されていない。

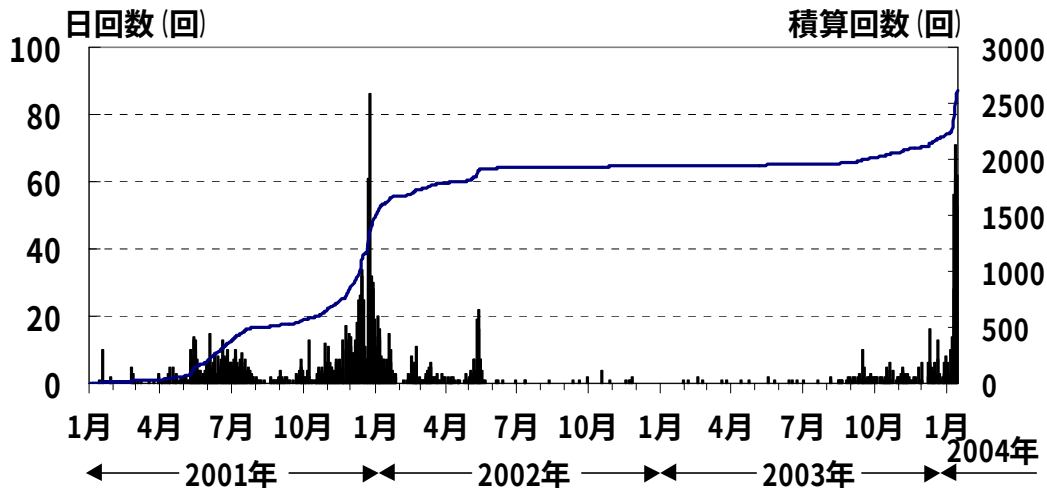


図2 吾妻山 地震の日回数（折れ線は積算回数）（2001年1月1日～2004年1月14日）

● 浅間山 [地震・熱] レベル：2（やや活発な火山活動）

昨年6月末頃からやや多く観測されるようになった振幅の小さい地震は、今期間も1日あたり22～56回とやや多く観測された。微動は観測されなかった（前期間は3回）。

群馬県林務部が火口縁に設置している赤外カメラでは、火口底で引き続き高温部が観測されたが、高温部の面積は徐々に縮小しており、浅部の熱的な活動に低下傾向がみられる。

◇ 伊豆大島 レベル：1（静穏な火山活動）

地震活動は静穏で、噴煙は確認されなかった。また、地殻変動等、その他の観測データにも異常な変化はなかった。

● 三宅島 [火山ガス・噴煙・地震]

14日に気象庁が産業技術総合研究所と合同で行った上空からの観測¹⁾では、火口から白色の噴煙が連続的に放出しており、火山ガスを含む青白い噴煙が東山麓へ流下していた。火口内の状況に変化はなかった。なお、強風のため火山ガス放出量及び火口内温度の測定はできなかった。

監視カメラによる噴煙の観測では、引き続き活発な噴煙活動が続いており、白色の噴煙が最高で火口縁上1,000mまで上がった。

振幅の小さいやや低周波の地震の回数は、11日の18時台に23回観測されたのをはじめ、1日あたり11～73回とやや多い状態で推移した。

GPSによる地殻変動観測では、昨年6月頃から再び三宅島の収縮傾向を示している。

1) 警視庁の協力による

● 阿蘇山 [熱・土砂噴出・降灰・微動] レベル：2（やや活発な火山活動）→3（小規模噴火の可能性） <期間外の記述を含む>

中岳第一火口の浅部の熱的な活動が活発で、規模の大きい土砂噴出が発生した。

14日15時41分頃、中岳第一火口で規模の大きい土砂噴出が発生した。これと併せて白色噴煙の噴出も強まり、一時火口縁上800mまで上がるのが観測された。同火口付近で観光客の安全確保のため監視にあたっていた阿蘇町の監視員によると、この頃「パン」という音と共に噴気音が大きくなるのが確認された。また、この土砂噴出に伴い、継続時間37秒のやや振幅の大きな震動が発生した。土砂噴出の発生は昨年7月10日以来である。

土砂噴出が発生した当日及び翌15日に行った現地観測、並びに15日に九州地方整備局の協力により行った上空からの観測では、中岳第一火口の湯だまりは黒灰色に変色し、火口壁の全面に黒色の噴出物が付着しているのを確認した。湯量の減少が続いていた湯だまりの量は、噴煙が多く確認できな

かった。

また、同火口の東南東約6kmの阿蘇郡高森町上色見（かみしきみ）地区で、飛沫状の微量の降灰を確認した。土砂噴出当時、阿蘇山上空は北西の風が強かったため、これに流されたものとみられる。

その後の噴煙活動の状況は、土砂噴出直後に比べて噴煙の勢いが弱まっているものの、白色噴煙が火口縁上500m程度まで上がり、やや活発な状態が続いている。15日16時13分～49分には継続時間36分の微動を観測したが、これに伴う噴煙活動の変化はみられなかった。

その他の観測データについては、孤立型微動が引き続き多い状態であった他は、地震の発生回数は少なく、GPS等による地殻変動の観測データには特に異常な変化はなかった。

◇ 雲仙岳 レベル：1（静穏な火山活動）

地震活動、噴煙活動とも静穏であった。その他の観測データにも異常な変化はなかった。

● 霧島山 [噴気]

御鉢の噴気活動は、前期間の3日に発生した継続時間の長い微動以降に一時活発になり、噴気が火口縁上100～200mまで上がったが、その後は勢いが弱まり、今期間は噴気が火口縁を越えることはなかった。なお、13～14日に行った機動観測で、噴気が噴気孔から高さ10～20mまで上がっているのが観測され、噴気活動は弱まりながらも継続しているのが確認された。

その他の観測データについては、微動は発生せず、地震も少ない状態で、GPSや傾斜計による地殻変動観測等には異常な変化はみられなかった。

▲ 桜島 [爆発・噴煙・噴石] レベル：2（比較的静穏な噴火活動）

期間中、1回の噴火があり、これは爆発であった（前期間は噴火・爆発なし）。灰白色の噴煙が火口縁上800m以上（それ以上は雲のため不明）まで上がり、噴石が8合目まで飛散した。また、鹿児島地方気象台（南岳の西南西約11km）では体感空振（中¹⁾）が観測された。なお、同気象台では降灰はなかった（前期間もなし）。

1) 体感空振（中）：誰にでも感じる程度。

● 諏訪之瀬島 [噴煙・微動]

期間中、爆発はなかった（前期間は3回）。

噴煙活動は活発な状態が継続しており、十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、白色の噴煙が最高で火口縁上700mまで上がった。連続微動が13日21時49分～15日03時20分に発生した。

地震の発生は少なかった。

表2 火山情報発表状況（本文中で期間外の記述をした火山については当該期間の情報を含む）

火 山 名	情報の種類及び号数	発表日時	概 要
三 宅 島	火山観測情報第11号 ↓（1日2回発表） 火山観測情報第24号	8日09:30 ↓ 14日16:30	活動経過ほか（噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想）。
阿 蘇 山	火山観測情報第2号	9日13:00	火山活動がやや活発（中岳第一火口の熱的な状態が高く、湯だまりは約4割）。火山活動度レベルは2。
	臨時火山情報第1号	14日15:57	中岳第一火口で規模の大きい土砂噴出が発生。火山活動度レベルは3（小規模噴火の可能性）に上昇。
	火山観測情報第3号 火山観測情報第4号	14日17:08 15日17:35	その後の活動状況、現地観測等の結果（火口内や降灰の状況）
霧 島 山	火山観測情報第4号 火山観測情報第5号	9日15:00 13日15:00	御鉢の火山活動はやや活発（地震回数が減少、噴気活動低下）。